

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 2月20日

事業所名 愛の木放課後等デイサービス ju-sin

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%			基準に従い適切な空間を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%			基準に従い適切に有資格者で人員配置を行っているが利用者が多い日や職員数がギリギリの際は細やかな支援が難しいこともある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%				今後も必要性が生じた際は随時検討、設置していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	75%	25%			部署ごとのミーティングや全体のミーティングを定期的または必要に応じて行い改善に努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%				年に一度実施し保護者の方の要望等確認する様にしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	75%	25%			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%			社会福祉会に第三者評価依頼中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				研修の案内を職員に紹介したり希望の研修に参加出来る様業務の調整を行っている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				半年に一度支援会議を実施し評価及び個別支援計画の作成を行う。それに基づき支援を実施している。学校や相談支援とも連携して行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%			客観的な評価及び支援計画の為、今後も適宜標準化されたアセスメントツールを使用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				立案・見直しの際には各職員の専門性を活かした見識を出し反映している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%			多様な意見が出る様活動を話し合う場の雰囲気作りに配慮する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%				事前に細かな予定を立て計画的に行っている。長期休暇や休日は平日になかなか出来ないことにも取り組んでいる。（社会参加活動など）チームで意見を出し合い立案・支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%				事前に計画を立て専門性を活かした活動も取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%			その日取り組むことや変更店など、毎日ミーティングを行い職員間の情報共有を行う。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%			その日の支援について報連相を行い次の支援に繋げている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				職員間で日誌の共有を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				今後も継続していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	75%	25%			今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%			今後も継続していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	75%	25%			送迎時のやり取りや保護者を含めた連絡ノートを使用している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	75%	25%			嘱託医の定期的な往診を行い医療との連携を取っている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%			コロナ渦で訪問は難しかったが保護者を通しての連絡は継続していた。今後も継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%				保護者を通して行っている。今後も継続していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	25%			参加可能な研修の場に積極的に参加し、情報共有も行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75%		25%		保護者が希望しない家庭もある為現状では難しいこともある
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	###	75%			コロナ渦が明け開催・参加出来る様になった。今後も継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	###				送迎時や連絡ノートを使用して細かいことでも伝える様になっている。今後も継続していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	25%			送迎時や連絡ノートを使用して行っている。今後も継続していく。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	###				今後も継続していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	###				専門性を活かし、多角的な視点から助言や支援を行う様努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	###				コロナ禍が明け開催出来る様になった。今後も継続していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	###				日頃から信頼関係を築くこと、苦情等を伝えやすい関係性の構築に努めている。今後も継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%			ホームページ等で行っている。
	35	個人情報に十分注意している	75%	25%			今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	###				今後も継続していく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	25%			コロナ禍が明け開催出来る様になった。今後も継続していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	###				今後も継続していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%			今後も継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	###				今後も継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	###				現状では該当する事例なし。 身体拘束について定期的に研修を行い職員間の共通認識を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%			現状では該当する事例なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	###				迅速に報告書を作成し職員間で共有している。今後も継続していく。